

# 介護老人保健施設ライフサポートねりま

症 例 概 要 利用者氏名：N・Y様（80代・女性・要介護2）

病名：悪性脳腫瘍 大腸癌後ストーマ造設主疾患

利用サービス：入所

経過：脳腫瘍は徐々に進行あり、言語・嚥下障害も増悪。脳出血も伴い、悪性化も見られる。意識障害みられ、看取り対応目的で当老健入所となる

## 内 容

入所当初は血圧変動、頭痛や嘔気の訴えもあり。覚醒悪く、食事摂取も困難のため体調が安定しない日々が続く。娘さんは週二回ほど面会があるが、Nさんの様子に対して常に敏感になり、「大丈夫でしょうか、ここに来て良かったのか、どうして良いか分からない」など涙を流し話す場面が多く、看取りを選んだが受容できない様子であった。

ご家族へ看取りパンフレットを使用し担当看護師より今後の意向についてを含め話し合う。母にとって痛い事や辛いことは出来るだけ無くして欲しい、ベッド上ばかりでなく普通に出来たら過ごして欲しい、食べるのが好きだったから食べさせてあげたい。スタッフ全員で想いを共有し、ケア方針を決める。

Nさんに対しては体調が良い日は離床し、食事ケア、清潔ケア、口腔ケア、当たり前の事をしっかり行うこと、ご家族面会時はスタッフから積極的に話しかけ、ここでの看取りを決めた家族の気持ちに少しでも寄り添い後押し出来るよう努めることを日々のケアとしてチームで行った。

大好きだったノンアルコールビールや果物果汁のゼリーなどを娘さんが持参し、入浴後やおやつ時などに提供。その頃は閉眼し殆ど開眼が無かったNさんであったが、ビール飲んでいる時やゼリーを食べている時は開眼されるが多かった。

娘さんからは、「ありがとうございます、母を宜しく願います」とお言葉あり。

9月中旬、意識障害と嚥下機能低下が進行。喀痰も増え経口摂取が難しくなり絶食となる。最期の日には洗髪をして、ご家族の希望でビールを浸したスポンジで口腔ケアを行い、お孫さんが化粧をしてNさんが好きだった洋服を着て旅立たれた。娘さんからは「ここを母の最期の場所を選んでほんとに良かったです、皆さんが母に話しかけてくれ、母が出来るだけ苦痛がないように考えてくださることがすごく伝わり、母はほんとに幸せでした」とお言葉を頂く。

当施設での看取りケアとご家族へのグリーフケアもしっかり行えた事例であった。